

# 循環型社会をめざして、 市民総参加による ごみ減量とリサイクル

みなさんは、ごみの減量とリサイクルを積極的に行っていますか。

オゾン層の破壊やダイオキシン問題、水質汚染などに象徴される地球的規模での環境問題。大量生産・消費・廃棄は今日の私たちの生活の中で生じたひずみといえます。この問題は、これからの人類が避けて通ることができない大きな課題です。

今後、循環型社会の構築を目指し、市民・事業者・行政がそれぞれの役割を明確にし、コラボレーション（協働）のもと、市民のみなさんがごみの発生抑制の意識向上とごみを出さない生活を実践していかねばなりません。

今回は昨年に「循環型社会を目指して～市民総参加によるごみ減量とリサイクル」と題して5人のパネラーとコーディネーターとの意見交換を行ったパネルディスカッションの生の声をお知らせします。《内容を一部抜粋して掲載》



佐藤さん《コーディネーター》

パネラーのみなさんに、ごみ減量・リサイクル推進シンポジウムについて、各々のお立場での活動状況などをお話いただきたいと思っています。

北原さん

衛生自治会は、昭和31年に設立した自主組織で、21地区で連合会組織をつくって、行政と連携を保つてきています。

また、生ごみの堆肥化の勉強会を行いコンポストの斡旋を行ってきました。諏訪湖、河川、公園の一斉清掃も行っています。

ごみの多くは可燃ごみで、その主な内訳は、紙類が約37%、生ごみが約29%、プラスチック類は約24%です。プラスチック類は日用品、包装用品、調味料の容器など近代文明の立役者の存在で色々な所に使われていますが、「腐つて自然に返らない」「高温で燃焼しないとダイオキシンが出る」「残った灰」などが問題とされています。うまく利用すれば、元の石油等になりますので、プラスチックの分別回収を、今後していかねばいけません。37%を占める紙類は紙・布・ダンボール等の部類で、お菓子の箱、ビールの箱など箱類は、資源物として出すよう再認識してほしいと思います。

生ごみの問題は、家庭でできるだけ堆肥化し、花壇、植木、畑に利用してほしいと思います。船橋

市にはエコ市民農園があり、市の環境部でバックアップをしています。生ごみの堆肥化など行っています。岡谷市では、191人の市民農園利用者がおり、約1haの面積だそうですが、農林水産課で生ごみの利用を奨励したら良いと思います。生ごみが一番燃料費を必要とすることを再認識しなければいけません。

山田さん

ごみ減量とリサイクルの取り組みとして、生ごみを出すときは、水切りダイエットを使用して水切りをしています。食用油は、使いきりを心がけ、できないときは、石けんをつくります。消費者の会の活動内容として、食用廃油の使いきりと廃油の回収については、昭和52年から始め、粉石けんにリサイクルしており、石けんの普及と拡大に努めています。また、市の環境安全課と一緒に小学校6年生を対象に石けんづくりを行い、環境問題を考えながら洗濯の実践をしていくジュニア教育も行っています。牛乳パックの回収については、昭和61年から始め、ごみの減量化を図っています。牛乳パックはパーシパルプでつくられており、大切な資源です。買い物袋持参運動については、昭和50年のときに会でオリジナルバッグをつくって使うようにしました。平成6年から年間約250枚くらいつくり普及に努めています。

また、環境のことを考えて買い



パネリスト  
北原光治さん  
(衛生自治会連合会副会長)

物をし、地球を守るためのライフスタイルを選ぶ消費者のことをグリーンコンシューマーといいます。「グリーンコンシューマーになりましょう！」という啓発活動を行っています。

大森さん

使い捨てになつてしまうプラスチック製品はなるべく買わないようにしています。マイバッグを持参して、レジ袋を断るようになっています。ペットボトルはリサイクルされていますが、本来の循環型リサイクルとは違うため買わないようにしています。

生活クラブは、ごみになるような物は使わないというポリシーを持っていますので、「豚肉はトレイに入れて配達しない」「卵も10個で1パックとする形を取らない」「調味料・ジュース類はガラスビンを使用する」など行っています。ビンは平成6年からリユースとして、ビンを洗って返却しており、埼玉にある洗ビン工場に運ばれ洗

浄し生産者の元へ戻ります。1本のビンに、みりんが入ったり、ジュースが入ったりします。牛乳もビン化され繰り返し使用しています。このシステムを地球環境の保護という意味合いから「グリーンシステム」と呼んでいます。

花岡さん

できることから、ごみ減量とリサイクル推進に取り組んでいます。家庭でのごみ分別には、ちょっとしたので『我が家のごみ奉行』的存在です。新聞を4紙購読しているため、回収日が雨のときには出せず困っています。個人的な取り組みとしては、市で分別回収しているものはきちんと出す。買い物はできるだけマイバッグを持参する。トレットペーパーやティッシュなどは古紙の再生品を利用する。子ども服類はお下がりへ回す。生協へ卵パック、お酒のパック等を返す。洗濯石けん、台所洗剤は詰め替え用を購入する。ごみの分別で迷った時は、市の分別表を見て判断する。不用品はできるだけフリーマーケットに出すなど普段から心掛けています。

吉沢さん

レジ袋の削減対策として、エコニコスタンプ制を実施して、▽買い物1回につき5円、20回で現金化させていただき100円をお支払いする。▽マイバッグのような買物袋の販売▽買物袋の持参のチラシ、店内放送での呼びかけ▽レ

ジ袋辞退カードによる推奨を実施しており、レジ袋の軽量化を進めています。また、レジ袋の有料化は他業者との競争を意識する中で、県下一斉に対応するならば検討したいと思います。容器包装についての取り組みについては、▽リターナブルビンの商品の販売と回収(ビール、酒、地域の牛乳等)▽はだか売り、ばら売りの取り組みを衛生上の問題を考慮した上での実践▽詰め替え容器で販売している商品の拡大と古紙製品の販売などを実施しています。

佐藤さん

大森さんよりビンの回収について話をいただきました。生協さんはリターナブルビンをどのくらい使用していますか。包装の仕方も、工夫してごみが出ない方法を取っていると聞きしました。一般の店頭商品との比較、消費者の観点からお話をお伺いしたいと思います。

大森さん

ビンの使用回数について、牛乳ビンは50回以上、使い方によっては100回以上になっています。その他のリユースビンは5種類ありますが、35回まで使えます。生活クラブの肉は圧縮されビニール包装で密着されており、空気に触れる



パネリスト  
山田宮子さん  
(消費者の会会長)

面が少ないため冷蔵庫の中で10日経つてもおいしくいただけます。卵は、班で一括購入し分け合い、卵のトレイごと持ち帰り洗って返します。スーパーで、きゅうりやレンコンなどをトレイに入れ、さらにラップする過剰包装を見かけます。お刺身、すしの盛り合わせは、そのまま食卓に出せる配慮で立派な容器が使われていますが、捨てるときに悩むので考慮すべきだと思えます。もっとスリムな販売を望みます。

佐藤さん

西友の吉沢さんに、販売店の立場でトレイ包装についてお聞きしたいと思います。

吉沢さん

不特定多数のお客様を対象とする販売のため、生協さんのような取り組みは難しいです。長野の環境パートナーシップ会議で包装の取り決めを全店で行う申し合わせを行いました。店頭で回収できるものは除きますが、大根、ニンジ



パネリスト 大森由紀さん  
(生活クラブ生協岡谷支部環境委員)

定されています。

佐藤さん《コーデイナー》

商品のラッピングとトレイを使用するかしないかについて、販売店の努力の内容をお聞きしました。岡谷市消費者の会でレジ袋についてのアンケート結果と水切りダイエットについてご紹介いただきましたと思います。

山田さん

ン、たけのこ、バナナ等95品目はトレイをいけません。水物、スライス物、色付きの特定の商品はトレイ扱いにしますし、産地、および流通の段階で、すでに包装している商品は除きますが、完熟してしまつた果物は除外します。

資源の有効活用としては、通い箱を使って流通をしていますし、ダンボール箱、発砲スチロール箱は再資材化します。業務用ラップは非塩ビ系の使用、生ごみは肥料や堆肥に再利用、お中元、お歳暮の包装の簡易化、包装紙、手さげ袋、チラシ、ポスター等は再生紙の利用を促進しています。省エネ、省資源の推進で効率的な設備の導入として、節電気、節水コマ、ライトカバーの使用をしています。

県環境保全協会、循環型社会形成県民会、環境にやさしい買い物キャンペーン委員会に参画して、環境問題に積極的に取り組んでいます。長野県のごみダイエットシブ、長野市エコサークルにも認

西友さんとアピタさんで聞き取り調査を行いました。買い物袋だけに限つてまとめみました。85人中24人が、買い物袋を持っていました。長野県では20%を目標としていますが、28・2%の結果となりました。もつたレジ袋は、最後はごみとして捨てます。必要以上のレジ袋をもらわないよう心掛けましょう。また、消費者の会では平成6年に防水の買い物袋を考案しました。

水切りダイエットは、一人の主婦が考案し特許を取つたシンク用の水切りと三角コーナの水切り用具です。手を汚さずに水切りができるアイデア商品です。たくさん人の利用でごみ焼却に相当の節約ができます。

牛乳パックの回収でリサイクルしたトイレットペーパーは、「芯なしホルテ」といつてごみとなる芯がありません。業者と契約して共同購入をしています。

佐藤さん《コーデイナー》

買い物を中心にお話が進みまし



パネリスト 花岡文子さん  
(PTA連合会 湊小学校副会長)

たので、ごみを出す部分での討論をしていただきたいと思っています。

北原さん

芯なしのトイレットペーパーは良いアイデアで、ぜひ広めていただきたいお話だと思います。

ごみの分別について、市のカレンダーがあります。分別が分かりにくいと思います。焼きうごんのアルミなべは資源物か、不燃物かで判断したい。ティッシュ箱はビニールを取りさえすれば、資源物へ出せます。また、ダイレクタメールの窓枠封筒もビニールを取れば、資源物へ出せます。これからは、リサイクルできるものは、市民運動のような形で取り組んでいくことが必要ではないでしょうか。最近では分解しやすい自動車も出ていますので、企業にもお願いをして、分別しやすい商品づくりをすべきだと思います。一升ビン

の回収はフタを取るよう衛生自治会で指導をしています。回収業者はフタを付けた方が輸送中に壊

### キーワード

#### ●循環型社会

大量生産・消費・廃棄の社会に代わり、製品の再生利用や再資源化などを進めて新たな資源投入を抑え、廃棄物ゼロを目指す社会。つまり、ごみを捨てずにごみを再利用してごみをゼロにしていくという社会。

#### ●グリーンコンシューマー

買い物をするときに、できるだけ環境の負荷が少ない商品やサービスを選ぶ、環境に配慮した消費生活をおくる、というように環境に配慮した消費行動をとる人。

れにくいようです。分別はちょっとしたことで出しやすかったり、出しにくかったり、ごみが増えたり、増えなかつたりします。このことをよく考え、研究していかないとごみの分別にはならないと思います。雑誌は、ホッチキスで止めてあるかにかよつて分別が違います。回収業者の意見も十分に取り入れ、お互いに分別の仕分けを知り合うことも大事だと思います。

ごみステーションの positioning は非常に狭く、雪かきをすれば埋まつてしまうほどです。このようではリサイクル時代の収集場所として



パネリスト  
吉沢 仁志 さん  
(西友岡谷北店 店長)

は良くありません。ごみステーションは道路、公園と同じ公共の施設になることが望ましいと思います。また、学校との連携で、小学校のころから、ごみについての問題や分別を勉強してもらいたいと思います。フランスの学校の授業で、「これは金属ですよ」、「これは燃えるごみですよ」と指導しているテレビを見たことがあります。ごみは、私たちの一生一代の問題として考えていってほしいと思います。

佐藤さん《コーディネーター》

ごみ問題は、子どもたちへの教育も大事であるということでした。PTA連合会の花岡さんに、中学校のPTAに望まれること、学校で楽しく学べる催し物などを実体的にお話をお伺いしたいと思います。

花岡さん

岡谷市PTA連合会では、ごみ減量とリサイクル推進をする対策は特にありませんが、南部中では

生徒会活動としてグリーンマーク集め、古切手、プリペイドカードの回収、書き損じハガキの回収をしています。グリーンマーク集めは、古紙再生品にあるマークを集めて苗木や古紙再生のノート等と交換をしています。森林資源を生かして緑を守り育てることを目的としています。昨年、事業主体が取り止めとなっていました。また、通学路クリーン大作戦として月一回、通学路のごみ拾いと、集めたごみの分別をする活動もしています。

湊小学校では児童会活動として、アルミ缶の分別回収を行い、市内福祉施設へ車イスの寄贈をしています。4年生はやまびこ公園の遠足を兼ねて清掃工場の見学をして、ごみの問題を勉強します。6月の諏訪湖一斉清掃では、親子参加で行い、ごみの分別をしています。

各小中学校のPTAで今後考えられる活動として、お下がり交換会があります。卒業と同時に不要となるかばんや制服等の譲り渡しをする会です。また、PTAの家庭教育学級で、小学校の児童や親を対象にごみ減量やリサイクル推進を楽しく学ぶことなどはどうでしょうか。空き缶、空きビン、古紙、不燃物のごみの山をつくり、親子数人のグループでごみの分別を競うゲーム、古紙再生品を並べ、何の再生品なのか当てるゲームなど考えれば良いと思います。

佐藤さん《コーディネーター》

消費者の立場、PTAの立場、販売店の立場、自治会の立場で生じてきている課題についてお話しただきました。これだけは提言したい、提案したいことがあります。ありがとうございました。

山田さん

大量生産、大量破壊をつくってきたのは私たちです。私たちの責任において世直しをしなければいけません。それにはまず、グリーンコンシューマーになることです。過大包装は断る、必要のないものは買わない、容器はリターナブルな物を選ぶ、エコマーク商品を買う、レジ袋は断り、マイバックを持って行くという賢い消費者になることです。自分たちの責任において、次の世代にごみ社会を継承しないために行ってほしいと思います。

また、学校教育でごみ問題を取り上げていくことが重要となってきていますが、私たちのジュニア教育では、子どもたちが生き生きとゴミ減量とリサイクル問題を学んでいます。

北原さん

今年の夏、ごみの散乱と生ごみの臭い（におい）が問題となりました。散乱はカラスによるものか猫によるものか分かりませんが、散乱しやすいため家庭のごみはだいたい見当がつくので電話をかけたがり、手紙を書いたりして個別対応をしました。



コーディネーター  
佐藤 恒夫 さん  
(諏訪地方事務所生活環境課長)

袋が2つぐらい入る大きな網の袋をもう一つ用意し、その中に入れるようにお願いしました。回収業者がこのことを伝えると、「袋は二重になるが、かえってこの処置を取った方が収集後の掃除をしなくて良い」と言われました。このように一対一での話し合いで解決したこともありました。

佐藤さん《コーディネーター》

ごみを減量化する、リサイクルすることは、私たち一人一人が自分の問題として考えていかなければいけません。ごみは工夫しだいで減らせるものです。ビールビンは約500種類出回っていますが、どこかで何かを変えていけば、コストが下がります。リターナブルができます。大量生産・大量消費・大量廃棄の時代は、もう終わっています。私たちのまちから、ごみを少しでも減らす努力をし、リサイクルされた製品を積極的に使い、地球にやさしい生活を進めていきましょう。